



どっかい、

碧南市の日本人人口は

まだ増え続けています

国の社会保障・人口問題研究所によると、日本全体の人口は、平成22年国勢調査の1億2千800万人をピークに、すでに人口減少社会に突入しており、2040年（平成52年）には、1億700万人、率にして16.2%減少すると見込んでいます。

同じく、西三河6市の将来推計人口は、碧南市が8.8%減、刈谷市1.5%減、安城市3.9%増、西尾市10.0%減、知立市0.4%減、高浜市10.6%増と見込んでいます。西尾市の方が碧南市より人口が減る予想ですが、碧南市の今後の人口も、国平均の半分ほどの

スピードで、少子高齢化、人口減少は進行していくとのことです。碧南市や西尾市は交通の便の悪さや海岸部であるということ、このような予想になっているのかもしれない。しかし、市の政策などによって人口減を回避できる道があるはずですし、そういう方向で官民上げて頑張る必要があります。

碧南市の人口は、22年の国勢調査時点から現時点（26年5月1日）までの間に7万2千18人から7万8千88人と120人（率にして0.2%）の減となっており、いよいよ衰退の域に達したようなイメージを与えます。

しかし、碧南市の日本人人口はまだまだ着実に増えています。外国人登録者数の推移を見ると、22年3月31日と26年3月31日までの間に、473人減っています。従って、この間、日本人は473人―120人＝353人増えていることになります。低地も同様に増えています。

碧南市の場合、まだアパート、マンションの空きは多いようですが、戸建て住宅については、早めに完売となっているようです。このあたりに、今後の碧南市の人口を維持、増加させていく鍵があるようです。臨海部等に新たに工業用地を確保し、市街地に良好な居住や子育て環境を整備し、民間を中心に戸建て住宅を多く供給してもらうことが肝要です。素晴らしい碧南市を共に築いていきましょう。

衣浦東部広域連合ニュース

問合せ 衣浦東部広域連合議会事務局 ☎(63)0131

8月19日(火)に衣浦東部広域連合議会定例会が刈谷市役所で開催されました。議会では、1人の一般質問のほか、平成25年度一般会計歳入歳出決算認定、26年度一般会計補正予算（第1号）など4議案が可決されました。

歳入 単位（円）

科目	予算現額	収入済額	構成比	収入率
分担金および負担金	4,494,678,000	4,494,677,031	95.2%	100.0%
使用料および手数料	13,206,000	18,161,566	0.4%	137.5%
国庫支出金	10,698,000	10,698,000	0.2%	100.0%
財産収入	1,000	220,500	0.0%	22.050%
寄附金	1,000	0	0.0%	0.0%
繰越金	171,061,000	171,061,969	3.6%	100.0%
諸収入	25,905,000	29,383,461	0.6%	113.4%
計	4,715,550,000	4,724,202,527	100.0%	100.2%

平成25年度衣浦東部広域連合 一般会計歳入歳出決算を認定

歳入総額は47億2,420万2,527円、歳出総額は45億5,586万6,019円、差引残額1億6,833万6,508円となりました。

歳入では関係市の分担金が44億9,467万7,031円で全体の95.1%を占めています。歳出では43億4,545万5,756円が消防費となっており全体の95.4%を占めています。

歳出 単位（円）

科目	予算現額	支出済額	構成比	執行率
議会費	2,001,000	1,754,743	0.0%	87.7%
総務費	214,319,000	198,519,194	4.4%	92.6%
消防費	4,468,592,000	4,345,455,756	95.4%	97.2%
公債費	10,638,000	10,136,326	0.2%	95.3%
予備費	20,000,000	0	—	—
計	4,715,550,000	4,555,866,019	100.0%	96.6%